

丸山湿原群保全の会会報

(第 214 号)

発行日：2025 年 (R7) 5 月 21 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！

「どうなってるんや？」米の話です。農家としては不思議で不思議で…消費者も不思議に思っておられることでしょう。「米がない？全く信じられない」これが実感。前作（一昨年）までは全く話題にもならなかった。むしろ「余る」状態。この一年で何が変わったというのでしょうか。

備蓄米の放出も入札？？政府が買い入れた価格で買ったところに戻せばいいのではと思うのは私だけでしょうか？でも米が余らないことに疑問が…コメ離れも進んでいるのに…

農家が減ってる？ま～そうでしょうが、「集約化、集約化」で 1 軒の作付面積は増えてきているはず。細々やっている棚田は消えゆく運命。これも安い米を食べるためには致し方なしか。

国の食料統計はどうなっているのでしょうか。調べてみると、需給バランスは変わっていないように見えます。個人消費量は 20 年で年間 10kg 以上減少。確かに生産量も減っていますがバランスは問題ない。(農林水産統計による) 変・変・変としか言いようがありません。足りないと言っている割に WCS (ホールクロップサイレージ≒飼料用青刈り) や飼料用米の生産は継続。補助金つぎ込んで農家補助。今年の作付けは青田買いならぬ「泥田買い」？米の価格が上がるのはうれしいですが…どこかで底が抜けるような気がしてなりません。ま～私は趣味のような米作りなんですけどね。その割には本格的。ともあれ今秋はどうなっているのやら。

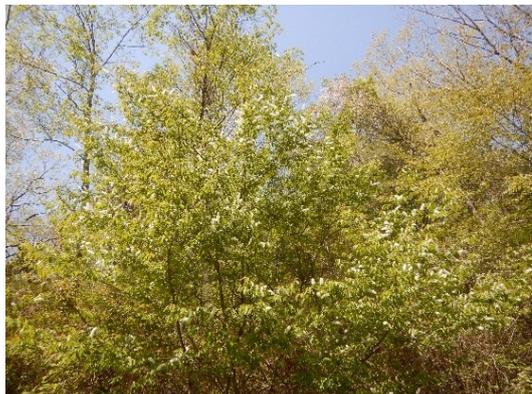
そうそう、米とパン・麺類の価格比較。パンや麺類の方が高いと思っていたのですが、米 5kg 3,250 円で逆転。今はパンなどの小麦類の方が安いことになるそうです。(三菱総合研究所)

そら～ますます米離れ進みますよ。どうなる日本の食料自給率！

(今住 5 月 18 日作成)

定期活動 ★4 月 27 日 (日) 作業 第 1 湿原バッファゾーン雑木柴刈り 7 名で作業

春爛漫の日でした。駐車場ではウワミズザクラ (上溝桜) やウリカエデ (瓜楓) の花がよく目につきました。駐車場にウワミズザクラあったんや。今年は木本の花があちこちでたくさん咲いています。



よく分からないがウワミズザクラ花盛り

ほとんどのようで、見分け方は茎や花・実にも毛があることだそうです。

ツチアケビの新芽も出てきました。今年は実までたどりつけるか楽しみです。竹筒ポスト付近ではツクバキンモンソウ (筑波金紋草) が開花。今年は少なめか。ミヤマウグイスカグラ (深山鶯神楽) の花がかわいい。最近までウグイスカグラは 1 種類だと思っていました。西谷にあるのはミヤマウグイスカグラが



ツチアケビ発芽



ツクバキンモンソウの花



マルバアオダモの花



最後の仕上げ ササ刈り

これを聞くとDNA的にはどうやねん?と書いてしまいますが、形質が違うことは事実。よく見ましょう。ややこしいのはヤマウグイスカグラというのもあるらしい。毛の生え方?が違うんですと…ふ〜ん…。さらにマルバアオダモ(丸葉青楸)の花もたくさん。湿原内にはヒメアギスミレ(姫顎堇)がたくさん咲いています。



毛が…ミヤマウグイスカグラ

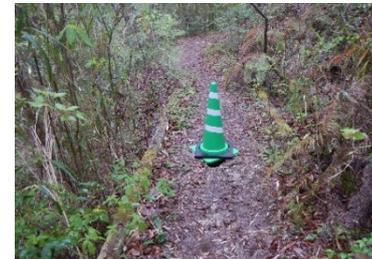
作業です。佳境を迎えているバッファゾーンのスケルトン化。進みそうでなかなか進まない。今回も手刈り中心。私はちっさいチェーンソー持参。今回も黙々と作業は進んでいきます。第4湿原側の茂みはあと少し。でも一番手前のササをこの日最後の作業としてやりきる決意が皆さんにもみなぎっていました。やらねばなるまい。

「刈り払い機を持ってくればよかった〜」との声も。奥でチェーンソー作業して合流した私に「チェーンソーでチャッチャとやって」と。?…「ササね〜チェーンが外れやすい」と心の声。でも明るく「いいですよ〜」と。大人やね。エンジンをかけ一気に

ザーッと刈り取ります。2度目の刈り取りを始めると。「ガチッ…」外れたかな。はずれたチェーンはたいがい傷んで回らなくなる。案の定回らない。やはり手刈りをお願いします。なんだかんだ言いながら短時間で片付きました。ご苦労様でした。帰り道。前から気になっていた橋に穴が開いていました。上から踏むと沈み込み、落ちるのも時間の問題と思いはじめて数か月。ついに…抜けた!報告は上げましたがさてどうなるのでしょうか。翌日三角コーンを立てておきました。通行には十分ご注意ください。しかし誰か落ちたのでしょうか?心配やわ〜。



誰か落ちた? けがはなかった?



翌日 コーンを設置

但馬からお客様 ★5月2日(金) 会員2名で対応 4名 偶然合流のオブザーバー1名も。

2022年にガイド研修ツアーでお世話になった「コウノトリの郷公園」ガイドスタッフ中心のもの好き4名が「太平洋側?の自然はどんなや?」とお越しになりました。こちらが伺った時に「クロゲンゴロウ・シマゲンゴロウ」が普通に見られた生物相豊かな所。



スタート時は小雨がまだ降っていた

コウノトリが空を自由に飛び交う姿に感動を覚えました。「こちらに来られても特にいい物は見られませんよ」と念を押してからのご訪問。雨でしたが、天候は回復へ。湿原に向かいます。



感激?のチゴユリ 4月27日撮影



丸山湿原 4月27日 朝5:40頃のシカ

道々植物の観察。咲いているチゴユリ（稚児百合）に「わあ！チゴユリ！」「何を言ってるんやこの人…どこでもあるがな」と心の声。実は但馬ではなかなか見られなくなっているとか。「ニホンシカ（日本鹿）」のせいです。深刻とは聞いていましたがこんなものまで。驚きでした。こちらでも能勢や川西では大変なことになっていますが、なかなか実感が湧きません。西谷地域や丸山湿原にもシカは増えていますが、下層植生を食べ尽くすまでには至っていません。猟ではたくさん獲れているようですが、シカの出没が問題になってから数十年。爆発的に増えない理由が西谷にはあるのではないかと考えています。ただ油断は禁物。現在最大の自然環境破壊生物（もう一ついるようですが…）と言われていています。見守りだけではなく頭数が調整できるような対策が必要です。「六甲山に入ったら」と超危機意識を持っている知り合いもいます。六甲山にいないのも不思議。

また、会報（無理やり配信）とblogもよく見てくださっていて、子どもたちの「ウラジロ天使の羽根」もまねしたいと。ところがこれもシカの食害？でなかなか見つからないとか。シダ類まで食べる…「ところ変われば、見られるものも違う」と言われていたのが印象的でした。逆にサワガニ（沢蟹）のかっこいい持ち方をご伝



かっこいいカニの持ち方 と西垣さんの指

授いただきました。さすが「松葉ガニ」の地域からの方、と感心しました。次やってみよ！その後、近くの「自然共生サイト」をご案内。但馬では見慣れないものも多かつたらしく、喜んでいただきました。次はサギソウの時期に来たいとも。ということはサギソウもシカに？…悲しいですね。

「コウノトリの郷公園」でガイドをお願いした菅村さん。豊岡（但馬地方？）で生物多様性保護の中心的役割を担っておられ、消えそうな（主にシカによる）植物の種子を「人と自然の博物館」のジーンファームへ送っておられます。シカ防止柵の設置やメンテナンス、荒れつつある草地の「火入れ」復活などなど。いや～えらい人や！一方、西垣さんは豊岡市但東町を拠点に活動する女性中心の団体「但東 野あそびくらぶ いつなっと」を主催。自然観察や、子どもに自然体験などを提供中。狩猟免許も取得し、シカをさばいて料理も研究中。獲ったかどうかは知らんで～。とにかく皆さんえらい！またいつなっとお越しく下さい。

定期活動 ★基礎調査 5月10（土） 9名の参加

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導（EC）	PH
丸山	35	75	入口	10:04	21.7℃		
ハイキング・登山	71	79	第3湿原	10:35	【17.9℃】	24.0 μS/cm	6.2
散歩	12	17	視点場	10:53	22.9℃	22.8 μS/cm	5.6
			第1湿原	11:07	【21.4℃】	22.6 μS/cm	6.2
			第2湿原	11:36	【19.1℃】	27.7 μS/cm	6.2

来場者数計 289人

（竹筒ポスト集計）

本日は基礎データ取りと、観察のみ。「♪夏もち～かづく 八十八夜♪ 野にもや～まにも わ～かばがしげる♪」八十八夜は立春から数えて88日目。今年は5月1日だったそうですが、まさしく夏が近づいた雰囲気「蒸しっ」と湿気が体を包み込むようでした。カメラのレンズも曇りがち。その割に雨は少ない。田んぼが…毎年ハラハラドキドキしています。たいがい何とかかなるんですが。「茶摘み」はせんよ。茶畑ないし。昔は生け垣にチャノキ（茶の木）を植えて番茶を作

っていた家が多かったんですが今は無い。うちの生け垣をイヌツゲから戻そうかと最近考えています。チャノキはまだかろうじて庭の片隅に残ってるし。どうよ？無理やな…

また、話が飛んでます。キンラン（金蘭）の時期。よく出ている場所を見ると咲いていました。



レンズ曇り中 キンラン

1株だけですが目立つようで目立たない。野の花は不思議です。ラン類はラン菌（ラン型菌根菌）と共生して生活。キンランは「部分的菌従属栄養植物」とも。菌が無ければ芽も出せないようです。稀に葉緑素を持たない白っぽいキンランもあるそう。本に紹介されていました。（月刊たぐさんのふしぎ『植物』をやめた植物たち 末次健司）ということはキンランを含むラン類や菌従属栄養植物がたくさんあるところは、地下生態系に菌類が豊富ということに。最もベースとなる土。「栄養」とは少し違うような気がします

が、生物多様性が豊かである証拠とも言えそうです。知らんけど…。（責任回避）南方熊楠も言っていたような？豊かな山。サギソウ含め消えないことを祈ります。

進みます。ツクバネウツギ（衝羽根空木）やコツクバネウツギ（小衝羽根空木）が開花。タニウツギ（谷空木）もきれいなピンクで楽しませてくれます。ミッキーマウスのような葉をしたアリマウマノスズクサ（有馬馬の鈴草）も伸びてきました。ジャコウアゲハ幼虫の食草。まもなく飛び始めると思います。



オオバノトンボソウとナラメリンゴフシ

今年よく目立つのが、オオバノトンボソウ（大葉蜻蛉草）。しっかりとした葉のランです。湿原内のコバノトンボソウ（ひ弱）とは違い、トンボの尻尾（花）が下がっています。7月ごろ開花しますがなかなか花まで見られない。花がおいしいのか？ウサギなどに食べられている？道のわきに結構出ています。ぜひ探してみてください。オオバノトンボソウの写真横にある赤い実は？「虫こぶ」ですのでお間違いなく。ナラメリンゴフシ（櫛芽林檎五倍子）。若いナラ類の冬芽にナラメリンゴタマバチが産卵。リンゴのようなベッドを作らせそ、のフワフワのベッドを食べて成虫になり旅立ちます。そのハチが今度は根に産卵。根にも虫こぶができるようで、その虫こぶを「ナラネタマフシ」というそう。私は見たことがありませんが。そしてまた冬芽に産卵…。西谷周辺ではコナラについています。



ギフチョウ卵抜け殻

ナラメイガフシもよく見ます。寄生しているハチの名前は想像できますね。ナラメ〇〇タマバチ。面白いですね～。

他にもいろいろありますが紙面が足りなくなりました。ギフチョウ（岐阜蝶）の話題を最後に。帰り道「ヒメカンアオイ（姫寒葵）に産卵があるはず」と、適当に葉っぱをめくっていくと、ありました。以前にも紹介したと思いますが、ギフチョウは卵の殻を食べません。見つけたのも抜け殻。たくさんあります。「幼虫がいるはず」と探しました。1齢幼虫と思われる細く小さい毛虫。最初は固まって生活。写真に収めて「よかったよかった」と帰ったのですが。帰って拡大してみると、みんなつぶれて？食われて？吸われて？いるようで…。他にもたくさん産卵している



何があった？幼虫よ！

ようですが、厳しい世界やな～と感じました。（脱皮あと？か？頭黒いし…）

今回は湿原のレポートが少なくて変な会報です。いつも変か？ご免やで。

総会は6月14日（土）を予定。会場案内・資料については6月初めまでに送付します。

次回活動日 5月25日（日）6月14日（土）午後総会 22日（日）7月12日（土）